



研究通信

2026.6.16

No. 1

発行者 河田直哉

わからん！わかった！！面白い！！！！

～学びを生かす3Cの授業の創造～

6年生 研究授業・研究会

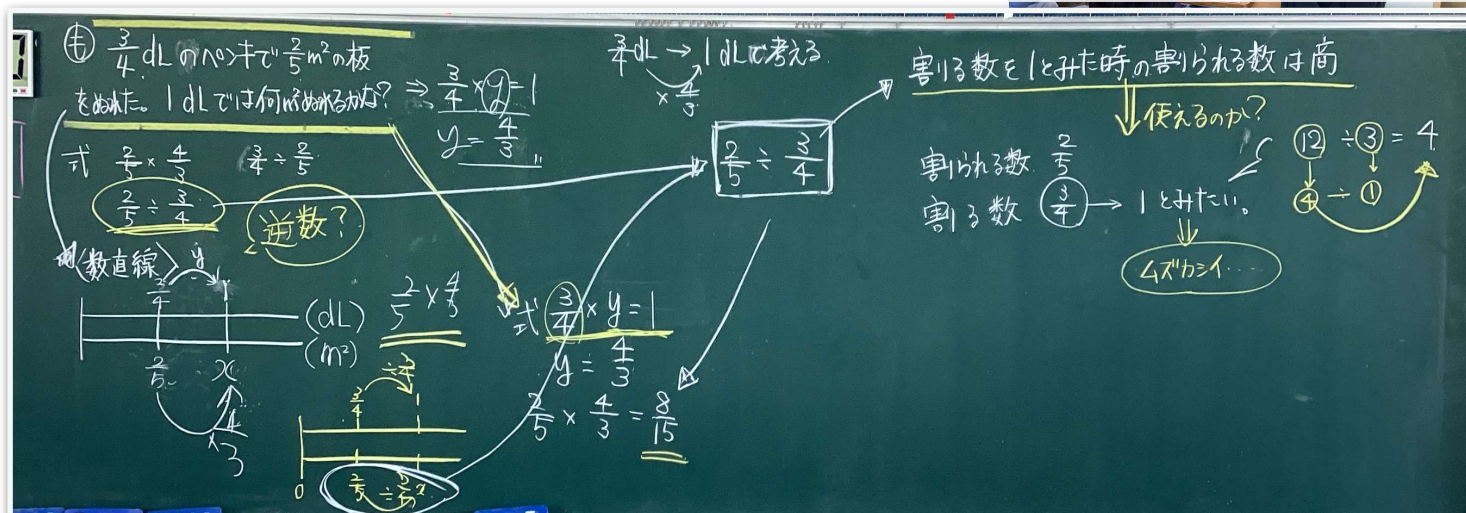
▽日時 令和8年6月12日（金） ▽授業者 采女 裕輝

▽学年 第6学年2組

▽単元名 【分数÷分数】

▽単元で生かす中核的な内容

「分数÷分数の計算においても、除法は除数を1と見た時の被除数の値として捉えることができる」



授業者・学年より



授業者

予想と違う展開に迷ったが、子どもたちがこだわった"立式"を考える時間に乗っかった。その後は、一番考えさせたかった"わる数を1と見るにはどうしたら良いだろう?"という場面に強引に移り、「難しかったなあ・・・」で終わってしまった。

【分数÷分数】の場面においても、今までと同じようにできると捉えてほしかった。

校内研修の際、A案（除数を1と見たときの被除数の値）とB案（逆数を使うと分数÷分数ができる）で悩んでいるという事をお伝えし、皆さんにも考えていただいた。

その後、中学校の"負の数"や"無理数"においても、生かすことができるのがA案であると考えたため、難しい事は覚悟の上で学年としてA案にChallengeした。

前時まで、整数や小数を用いて割り算を捉え直し、今回の「分数にも適応できる！」と行きたかった。



学年

各学年より

2年

Challenge (まも戦する子)

- 自信ない子も伝えられてた。
- わからなさを言葉にできていた。
- ノートをきれいにまとめていた。

Connect (つながる子)

- つながろうとがんばっていた。(解き方)
- 数直線①
- 友だちの意見にしっかり反応。
- 今日は計算? わり算?

Consider (考える子)

- 自分たちの考えをしっかりと伝えられてた。
- 書き習いしをノートで確認していた。
- 1人1人で考える時間
- ③ 数直線じゃやらない! と出てほしいなあ...

3年 + 横田

Challenge (まも戦する子)

- いろいろな式を考えようとしていた。
- 今までに習ったやり方や文字式に表してみたり。

Connect (つながる子)

- 反対!
- わかる? できそう?
- ペペ
- 聞いたことをノートに書いてなっとくしていた。(できるようにしたい)
- 友達から聞き方が② クラスのみんな
- 友だちの考えに「それいいやん。」
- 自分の考えに取り入れていた。
- 自分の意見を言って終わりにしてしまうことも...
- 満足して解決
- 「わかった人? からでなく、わかん人? から聞くのもあり?

Consider (考える子)

- $\frac{2}{5} \times \frac{4}{3}$ はよい。
- 問題文に書いてある数字を使って式をつくる?
- 問題をよむときに、「これは何算?」とよく。
- 答えは1つだけ、そこまでの考え方はたくさんある。わり算、かけ算。
- 「どうやら考えられるの?」と自分で考えていた
- 前のノートを返して考えている。
- 「前に習いましたよね?」とみんなに聞いている。

4年 + 教頭

Challenge (まも戦する子)

- 先生を納得させようとしていた。
- 「わからない」といってた
- くわいおていえいば よかた

Connect (つながる子)

- 既習事項を使う(数直線)
- 友だちと共有。
- 前のおみせに説明
- 数直線の説明は、大勢の子が分かっていた

Consider (考える子)

- 話してみたら、わからないことに気づいた
- 既習をどう使えるか考えていた
- 焦点化 (分数のわり算)

5年

Challenge (まも戦する子)

- 最初の問題が出た時に数直線が出てきてほしい...
- 問題文に書いてある数字を使って式をつくる?
- 問題の整理が子どの中ですべて...
- 先生の「?」に対して理解させたいという姿勢
- 「前の学年の発展的な問題?」

Connect (つながる子)

- 立式のタイマー
- 「あ、そういうことか!」
- ↓
- 他の子たちに広げていく
- 隣の子に教えて
- 説明する者も...
- 「うん、いいね」

Consider (考える子)

- 特定の子たちの空中戦
- 問題の整理が子どの中ですべて...
- 先生の「?」に対して理解させたいという姿勢
- 「前の学年の発展的な問題?」

ひばり + 校長

Challenge (まも戦する子)

- 前で発表①
- 自信がないなりに、式を書くことができていた。
- 近くの人に「わからない」言えた。
- 数直線 (前時の内容)

Connect (つながる子)

- 整数での立式
- ↓
- 分数ではどうなの?
- 既習とのつながり
- 正しい言葉になっても、伝え合う、交流する①

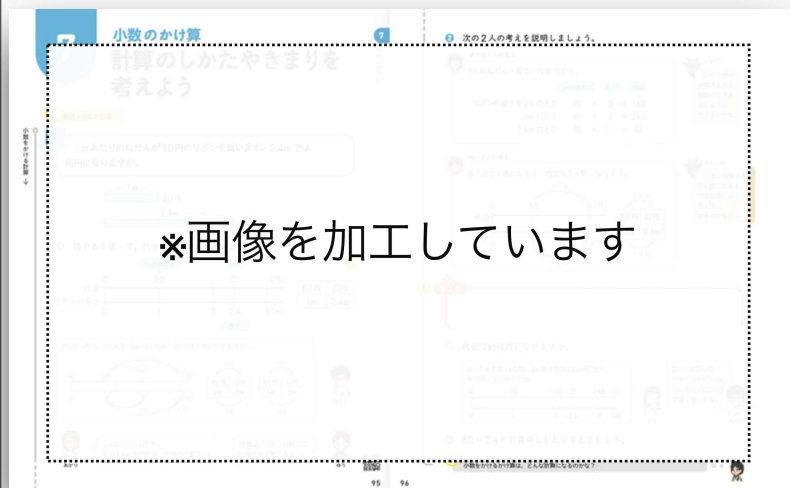
Consider (考える子)

- 子供たちは $\frac{2}{5} \times \frac{4}{3}$ で納得
- ↓
- 先生は 反対!
- ↓
- なんで!?
- ↓
- 子供たちが先生に納得して欲しい! 必死に考える。(どうしたらいいかな? など?)



樋口万太郎先生 より

▼本時について



- ◎既習を生かす子たち
- ◎先生との関係性
- ◎先生自身がChallenge !



学校図書、5年生、小数のかけ算、単元の1時間目です。

この時間の"ゴール"は
なんでしょうか？

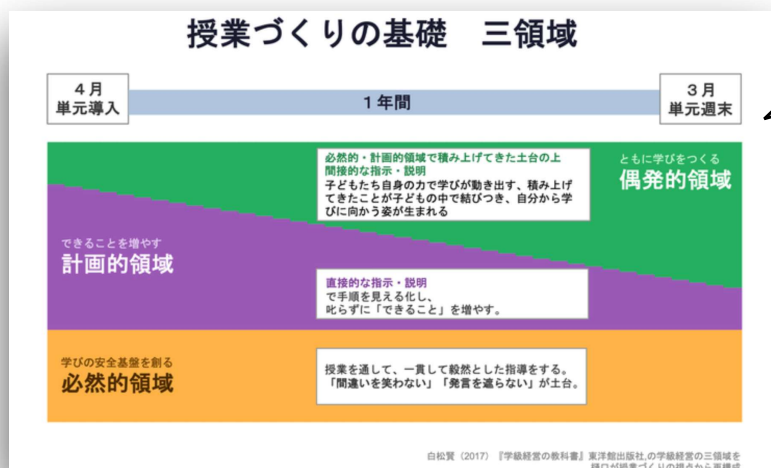
「整数×小数でも、整数×整数のときと同じように立式できる」とまとめることが重要。

「だったら分数のかけ算も同じようにできるのかな？」「わり算も同じようになっているのかな？」と問いや課題をもち、発展させていくようになる。この学校でいうところのChallengeである。

教科書では、立式と計算方法の時間を分けている。なぜなら、立式の段階で子どもたち自身が「今までと同じなんだ」と統合させることが重要だから。

授業者は「一番考えさせたかった場面（計算方法）に強引に移り、難しかったなあ・・・で終わってしまった。」と話していたが、それを狙うのであれば、**授業を分けた方が良かった**。

▼授業づくりの三領域



自立した学習者
を育むために大切！

偶発的領域を増やしていくには、
システムが必要。

⇒ **3C** がそれに当たる。

ともに学びをつくる**偶発的領域**

必然的・計画的領域で積み上げた土台の上
間接的な指示・説明
子どもたち自身の力で学びが動き出す、積み上げてきたことが
子どもの中で結びつき、自分から学びに向かう姿が生まれる

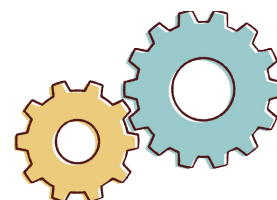
愛媛大学平松義樹教授の「学級経営の三領域」を、授業づくりの視点から樋口先生が再構成したものです。

できることを増やす**計画的領域**

直接的な指示・説明で手順を見える化し、叱らずに
「できること」を増やす。

学びの安全基盤を創る**必然的領域**

授業を通して、一貫して毅然とした指導をする。
「間違いを笑わない」「発言を遮らない」が土台。



▼ 3Cについて



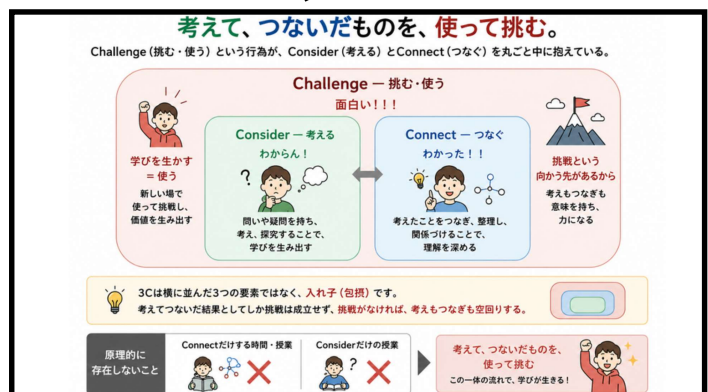
3Cは、
バラバラではない…

3つのパターンを
ご提案いただきました!!

パターン1



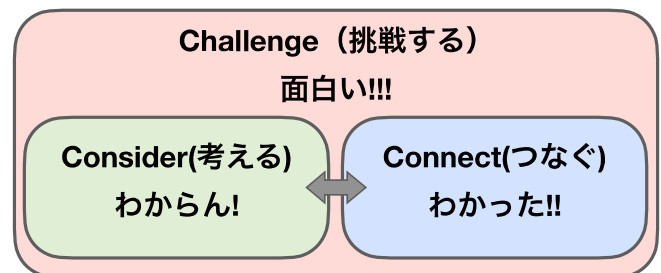
パターン2



基本的に1本の道筋になっているイメージ
最後にChallengeという位置付け

- ①Consider = わからん！
問いや疑問を持つ。
- ②Consider・Connect = わかった！！
学習してきたこと、経験をつないでわかる。
- ③Challenge = 面白い！！！！
それを使う。他の問題に取り組む面白い。

Challengeは「3つ目の活動」ではなくて、
ConsiderとConnectが起きる「場所」



たとえば…

流れ	具体的な場面	3C
導入	「どっちが混んで？…比べられへんやん」	わからん！／Consider起動 (問いが生まれる)
展開	人数・面積に着目、既習の割合とつなぐ	わかった！！／Consider×Connect (揃えればい、という概念的知識の獲得)
活用	「この考え方、速さや人口密度にも使えるんちゃう？」	面白い！！！！／Challenge (学びを生かす・統合発)

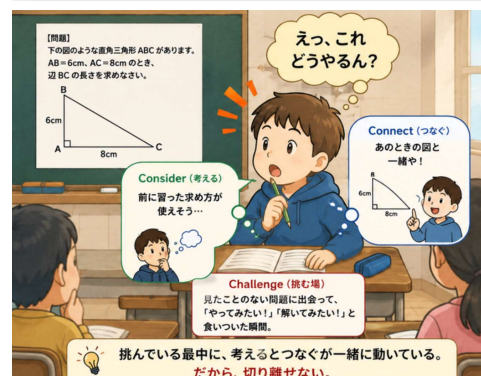
たとえば…



Consider：手が止まる、つぶやく、「なんで？」が出る

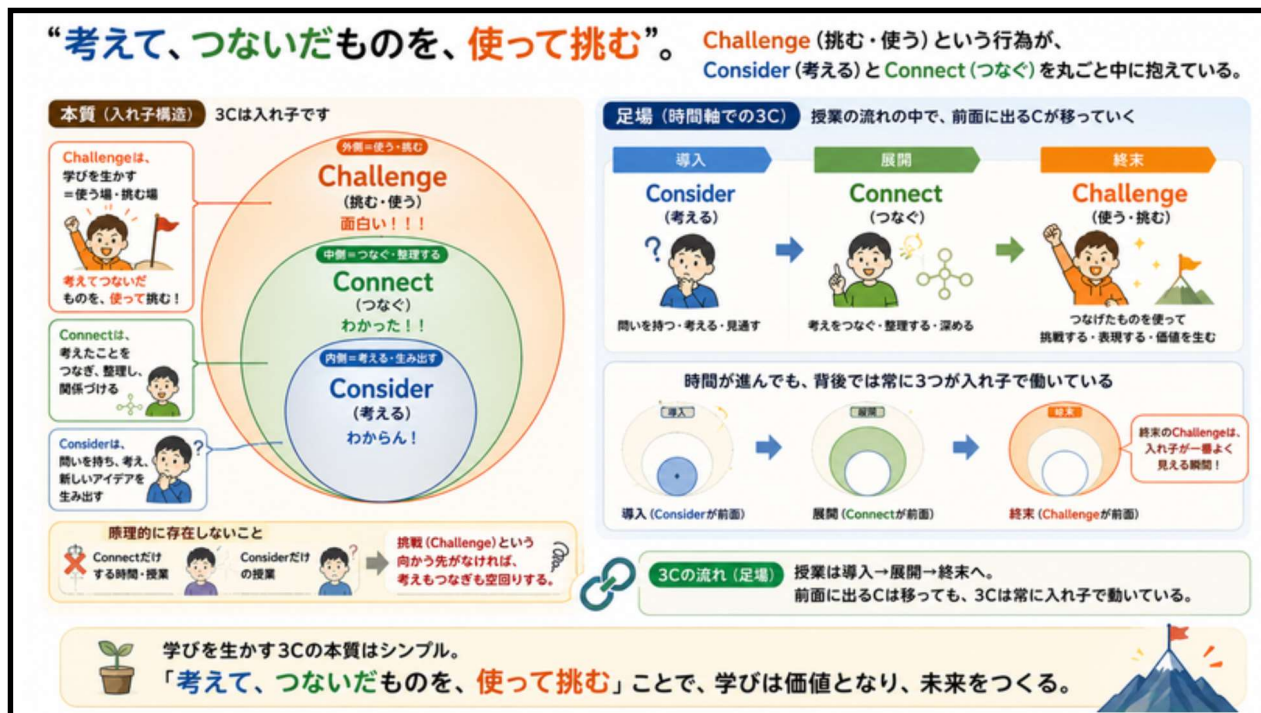
Connect：友だちの考えに乗る、「〇〇さんと一緒に」「既習と同じ」と言う

Challenge：「他でも使える？」と問う、自分から問題を作り変える、適用範囲を広げる



▼3Cについて

パターン3



【パターン1とパターン2のハイブリッド型】

構造

授業は1時間で終わるのではなく、これまで学習してきたことを生かして次の新しい問題を解いていくもの。
まさに**Challengeし続ける**姿。
だから入れ子構造。
常に**Challenge**の場に**Connect**と**Consider**が入っている様子。

時間

- ①導入 (**Consider/考える**) = わからん！
問いを持つ・考える・見通す
- ②展開 (**Connect/つなぐ**) = わかった！！
考えをつなぐ・整理する・深める
- ③終末 (**Challenge/挑戦**) = 面白い！！！！
つなげたものを使って
挑戦する・表現する・価値を生む

学びを生かす

今回の研究会では、本校の研究テーマ【**わからん！わかった！！面白い！！～学びを生かす3Cの授業の創造～**】と、それに対する実践について樋口先生より3つのパターンをご提案をいただきました。6年生の授業・単元の提案に対して具体的に示してくださいましたので、イメージを持ちやすかったのではないかと思います。

昨年度からの私たちの研究を整理してくださったこの3パターンは、研究部を中心に活用の方法を考えて参りますが、研究部に関わらず、様々なご意見をいただきたいと思います。

本校の研究を、1月の公開研で広く提案できるように頑張っていきましょう！！

TM担当者 より

6年生の先生方、トップバッターでの提案、ありがとうございました。

子どもたちと出会ってまだ2ヶ月、「分数÷分数」という難しい単元、そして「分数÷分数の計算においても、除法は除数を1と見た時の被除数の値として捉えることができる」という中核的な内容の設定。あらゆる困難にChallengeされた先生方の姿が、私にとって大変学びになりました。

子どもたちに負けないよう、私たち自身もChallenge・Connect・Considerしていきましょう!!

